2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	杉谷 正次
最終学歴	学　位	専門分野
愛知学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了	文学修士	スポーツ経営学、経営情報学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

自らのクレド「教育も研究も一歩一歩着実に」をモットーに、学生には、ものの見方や考え方の基礎・応用を身につけるとともに、本学園の建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を教育理念とする

（目標）

教育力の向上を目指すとともに、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓「真面目」を意識した教育活動に努める。教育力の向上については、「魅力ある授業づくり」、校訓・建学の精神を意識した教育活動については、「問題解決能力を備えた、真面目で責任感のある人材」を育成する。

（方針）

事前事後学習を積極的に取り組ませる授業、わかりやすく興味の持てる授業を目標とした「魅力ある授業づくり」に取り組む。

（計画）

本学が導入している PC 必携（BYOD）制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目とも PC を積極的に活用する。講義科目では、毎時間シラバスで提示した講義の目的と概要を提示するとともに、事前事後学習につなげるための資料提示、毎回提示する課題を活用しつつ、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら講義をすすめる。演習科目では、問題解決能力を身につけさせるため、各自が設定した研究テーマにおける課題を明確にさせ、それに対するレポート作成、プレゼンテーションなどの指導にあたる。特に 3 年生の専門演習では、研究発表、また 4 年生の専門演習では、卒業レポートを作成して研究発表ができるよう指導する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

入門コンピュータ、スポーツマネジメント、スポーツ情報論、スポーツビジネス、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

データリテラシーⅠ、クラブ組織論、データベース演習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

コロナウイルスの影響もあったが、すべての授業を対面形式で実施することができた。特に講義科目では、映像教材を多数導入するなど、「わかりやすく興味の持てる授業」の実践に心がけた。教育方法の実践としては、本学が導入している PC 必携（BYOD）の制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目ともに PC を積極的に活用した。また講義科目では、確認小テストを毎回導入す

ることにより、学生の理解度を確認しながら授業を展開した。

○作成した教科書・教材

授業で使用する映像資料の作成、「入門コンピュータ」「ビジネスコンピューティング」の教科書『コンピュータリテラシー(2022 年度版)』を共同(高木・杉谷・正岡)で作成した。

○自己評価

本年度の教育活動における目標・計画については、概ね達成することができたと考える。

講義科目については、受講者が少人数であったということもあり、事前事後学習につなげるための課題提示、毎回実施する小テストを活用しつつ、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら授業をすすめることができた。

演習科目の「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅲ・Ⅳ」では、レポート作成、プレゼンテーション、研究発表を行うことができ、同授業についても当初の目標を達成することができた。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

スポーツツーリズムに関する研究

○目標・計画

（目標）

同研究課題については、これまで学術論文として「スポーツ・ツーリズムの可能性を探る－国際リゾートをめざす北海道ニセコ地域の事例から－」(2011 年 12 月)、「沖縄観光におけるスポーツ・ツーリズムの現状と課題」(2012 年 12 月)、また著書として『スポーツ・ツーリズムの可能性を探る』(2015 年 11 月)、『持続可能なスポーツ・ツーリズムへの挑戦』(2020 年 3 月）などの研究成果を発表している。こうした研究成果をもとに、スポーツ・ツーリズムが新しいビジネスモデルとして成立するかなどについて検討する。

（計画）

今年度の具体的な研究計画としては、スポーツ・ツーリズムに取り組む自治体組織、スポーツ団体、ＮＰＯ法人などを対象とした実地調査、アンケート調査を実施し、新たなデータ・資料を収集する。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・杉谷正次，石川幸生『持続可能なスポーツ・ツーリズムへの挑戦』唯学書房，2020 年 3 月，pp. 1-49.

・杉谷正次, 石川幸生『現代スポーツマネジメント－マーケティングからマネジメントの時代へ－』三恵社，2016 年 9 月，pp. 21-29，pp. 72-127.

・杉谷正次，藤森憲司，青木葵，石川幸生，葛原憲治『スポーツ・ツーリズムの可能性を探る－新しい生涯スポーツ社会への実現に向けて－』 唯学書房，2015 年 11 月，pp. 25-57.

（学術論文）

なし

（学会発表）

・Masatsugu SUGITANI, Yukio ISHIKAWA, Takashi ONO, Mamoru AOKI：Study on the Park-golf of the effects of a lifetime sport, From the survey of the awareness of Park-golf enthusiasts, International Conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, Journal of Education and Health Science, Volume 64, Number 1, August, 2018, p75.

・杉谷正次，石川幸生，青木葵，脇坂康彦，小野隆「生涯スポーツとしてのパークゴルフの研究－スポーツ・ツーリズムに着目して－」第64回日本教育医学会大会，三重大学，2016年8月，p55.

・Noriko KIMURA, Mamoru AOKI, Yukari MATSUI, Yukio ISHIKAWA, Masatsugu SUGITANI：Current state of end-of-life care for older adults with dementia in group homes: Results of a nationwide survey in Japan, 第16回日・韓健康シンポジウム 兼第63回日本教育医学会大会，関西学院大学西宮上ケ原キャンパス，2015年8月，pp.136-137.

・葛原憲治，柴田真志，杉谷正次「小学生ジュニアサッカー選手における傷害発生率」第19回日本体力医学会東海地方学術集会，名古屋大学，2015年3月，p36.

（特許）

なし

（その他）

・杉谷正次，石川幸生『パークゴルフにおけるアンケート調査報告書』（共著），公益社団法人日本パークゴルフ協会(NPGA)設立30周年記念事業，ソーゴー印刷株式会社，2017年9月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

2018年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

2017年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

2016年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

2015年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

○所属学会

経営情報学会、日本情報経営学会、日本教育医学会、日本スポーツ産業学会、日本生涯スポーツ学会、日本スポーツマネジメント学会

○自己評価

コロナウイルスの影響もあったが、当初計画していた研究活動(実地調査等)を予定どおり行うことができた。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

委員会等の諸活動に積極的に関与し、大学運営に寄与する。

（計画）

学長補佐（入試戦略担当)、入試委員会委員長としての業務をこなし、大学運営に貢献する。

○学内委員等

入試委員会、大学協議会

○自己評価

本年度は、学長補佐、入試委員長としての業務をこなし、当初の目標である大学運営に貢献することができた。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

高・大連携授業等に積極的に関わるとともに、地域貢献、社会貢献としての地域スポーツ振興に寄与する。

（計画）

系列校である東邦高等学校の高・大連携授業、外部の高等学校から要請のあった出張講義を積極的に行う。また、日進市サッカー協会理事として、同サッカー協会の運営、愛知県西尾市より要請のあった「西尾市スポーツまちづくりビジョン 2040 策定委員会」の委員長として、地域スポーツの振興に寄与する。

○学会活動等

日本生涯スポーツ学会第 24 回大会(於：愛知東邦大学)実行委員会の委員として大会運営を担当した。

○地域連携・社会貢献等

日進市サッカー協会理事(2008 年 7 月～現在に至る)

西尾市スポーツまちづくりビジョン 2040 策定委員会委員長(2022 年 4 月～2023 年 3 月)

○自己評価

学内の活動では、系列校である東邦高等学校との高・大連携授業「授業タイトル：スポーツ情報学のススメ」を担当した。

学外の活動では、日進市サッカー協会理事として同協会が主催するサッカー大会のマネジメントなど、地域スポーツ振興に貢献することができた。また、愛知県西尾市より委嘱を受けた「西尾市スポーツまちづくりビジョン 2040 策定委員会」の委員長として、地域スポーツの振興に寄与した。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

なし

Ⅵ　総括

本年度は、学長補佐・入試委員長としての業務でかなりの時間を費やし、当初の目標・計画であげた課題を概ね達成することができた。次年度も教育・研究活動のための時間を確保するなど、さらなる教育・研究の成果をあげられるよう努力したい。

以　上